

41. 再帰動詞

1. 再帰動詞と再帰代名詞

Ich fand dich im Zimmer. *I found you in the room.*

この文は「私は君をその部屋で見つけた」という意味ですが、もし目的語を主語と同じ人称、つまり1人称にしたらどんな意味になるでしょうか。

Ich fand mich im Zimmer. *I found me in the room.*

これをそのまま日本語にすると「私は私をその部屋の中で見つけた」ということになりませんが、これを「私はその部屋の中にいることに気がついた」と訳します。つまり「自分自身を…で見つける」とは「…にいることに気がつく」という意味で使われます。

このように主語の人称と目的語の人称が一致する動詞のことを再帰動詞(Reflexiv)といい、その場合の目的語として用いられる代名詞を再帰代名詞といいます。英語では再帰代名詞を普通の人称代名詞と区別するために人称代名詞の所有格に *-self*をつけた *oneself*というかたちが使われますが、ドイツ語では次のようなかたちを用います。

sg.			pl.			
1人称	2人称	3人称	1人称	2人称	3人称	敬称
3. mir	dir	sich	uns	euch	sich	sich
4. mich	dich	sich	uns	euch	sich	sich

ドイツ語では目的語は3格と4格のふたつがありますから、再帰代名詞も3格と4格のふたつが必要です。また1人称と2人称は単数複数とも人称代名詞と同じものを用いますから、混同しないようにしてはなりません。区別は簡単で、目的語の代名詞が主語と人称が一致していれば再帰代名詞なのです。3人称は単数複数ともに *sich* という性数格の区別のない特別なかたちを使います。また敬称はもともと3人称複数を借用したものですからやはり *sich* を用いていますが、小文字で書き始めていることに気をつけましょう。また不定代名詞の *man* も再帰代名詞として *sich* を用います。

なぜ3人称で *sich* という特別なかたちを使うのかという点は次のような理由からきています。

Er fand ihn im Zimmer. 「彼は彼をその部屋で見つけた」

この場合の主語の「彼」と目的語の「彼」は別人です。ところが再帰代名詞を用いて

Er fand sich im Zimmer. 「彼は自分はその部屋にいることに気がついた」

とすれば、あきらかに主語の「彼」と目的語の「彼」は同一人物だということがわかるのです。

2. いろいろな再帰動詞

結局再帰動詞は再帰代名詞とともに使われる熟語動詞の一種ですから、本来の動詞の意味から離れたいろいろな意味で用いられます。例えば *freuen* という動詞は本来4格の目的語を必要とする他動詞で「…を喜ばせる」という意味です。

Ich freue ihn. 「私は彼を喜ばせる」

ところが再帰動詞として4格の再帰代名詞とともに用いると

Ich freue mich. 「私は自分自身を喜ばせる」

ということになり、要は「私は嬉しい」という意味になります。この再帰動詞の主語をかえて人称変化をさせてみましょう。

sich freuen 「喜ぶ」

sg.
ich freue mich
du freust dich
er freut sich

pl.
wir freuen uns
ihr freut euch
sie freuen sich

3人称は単数複数ともに sich を用いることに気をつけてください。もちろん敬称も Sie freuen sich となります。

こうした再帰動詞は辞書ではドイツ語の再帰動詞(Reflexiv)の省略形 [refl.] あるいは[再]という略号で示されます。また再帰動詞は4格の再帰代名詞とともに用いられるものが多いため、4格の再帰代名詞は sich を用いてあらわしますが、3格の再帰代名詞の場合は sich³として示すことになっています。

a. 4格の再帰代名詞とともに用いられる再帰動詞の例

sich ärgern	「怒る」	sich erinnern	「思い出す」
sich beeilen	「急ぐ」	sich erkälten	「風邪をひく」
sich bewegen	「動く」	sich freuen	「喜ぶ」
sich entschließen	「決心する」	sich setzen	「座る」

例えば sich ärgern は本来 jn. ärgern「…ひとを怒らせる」という意味で使われる動詞ですが、再帰代名詞を目的語にして「自分自身を怒らせる」すなわち「怒る」という意味になったものであり、sich freuen は jn. freuen「…ひとを喜ばせる」が再帰動詞として「自分自身を喜ばせる」すなわち「喜ぶ」という意味になったものです。

b. 3格の再帰代名詞とともに用いられる再帰動詞の例

sich³ et.⁴ erlauben 「あえてする」 sich³ et.⁴ vorstellen「想像する」

3格再帰代名詞をともなう再帰動詞は、現代ドイツ語では4格の例ほどには用いられません。

このように再帰動詞はかならず4格の目的語をともなって用いられるため他動詞であり、完了時称では haben 支配となります。

また再帰動詞は基本的には熟語動詞であるためしばしば前置詞句をともなって用いられます。

sich auf et.⁴ freuen 「(未来のことを)楽しみにしている」

Ich freue mich auf die Winterferien. 「僕は冬休みを楽しみにしている」

sich über et.⁴ freuen 「(現実のことを)喜ぶ」

Er freut sich über das Geschenk. 「彼は贈り物をもって喜んでる」

sich an et.⁴ erinnern 「…を思い出す」

Wir erinnern uns an jenen schönen Tag. 「我々はその美しい日のことを思い出す」

3. 相互代名詞

再帰代名詞は「おたがいに」という意味をあらわす相互代名詞 einander (= each other)の意味で用いられることがあります。

Wir lieben uns.

「私たちは愛し合っている」

またこの両者が一緒に用いられると「おたがいに」の意味を強める働きをします。

Die Studenten helfen sich einander.

「学生たちはお互いに助け合う」